

令和2年度前期選抜試験

I期一般

国語

注意

- (1) 合図があるまでこの問題用紙は開かないこと。
- (2) 説明にしたがって、解答用紙に受験番号・氏名を記入し、受験番号はマークもすること。
- (3) 答えはすべて解答用紙にマークし、解答用紙だけ提出すること。
- (4) 問いにあてはまる答えを^{せんたくし}選択肢より選び、該当する記号にマークすること。

例 問1にエ、問2にウ、問3にアと答えたいとき

問1	<input type="radio"/> ア	<input type="radio"/> イ	<input type="radio"/> ウ	<input checked="" type="radio"/> エ
問2	<input type="radio"/> ア	<input type="radio"/> イ	<input checked="" type="radio"/> ウ	<input type="radio"/> エ
問3	<input checked="" type="radio"/> ア	<input type="radio"/> イ	<input type="radio"/> ウ	<input type="radio"/> エ

横芝敬愛高等学校

【1】次の問いに答えなさい。

問1 傍線部の慣用句の使い方が正しいものを次の中から一つ選び、マークしなさい。

- ア 試合が中盤にさしかかった時に雨が降り出し、濡れ手で粟と中止にした。
- イ 友だちに国語のテストの結果を聞いたが、お茶を濁す答えしか返ってこなかった。
- ウ 勉強は思い通りに進んだが、調子に乗って足をのばしすぎて注意された。
- エ 母親の誕生日祝いの準備をしていたら、母に気付かれずねをかじられた。

問2 四字熟語が正しく表記されているものを次の中から一つ選び、マークしなさい。

- ア 暗中模索 イ 三味一体 ウ 二速三文 エ 油断対敵

問3 傍線部が尊敬語になっているものを次の中から一つ選び、マークしなさい。

- ア レストランで特別メニューをいただく。
- イ 頼まれたものは私がお届けします。
- ウ 朗読会で先生が本をお読みになった。
- エ 席は係りの者がご案内いたします。

問4 作者と作品名との組み合わせとして正しいものを次の中から一つ選び、マークしなさい。

- ア 芥川龍之介『雪国』 イ 島崎藤村『たけくらべ』
- ウ 夏目漱石『走れメロス』 エ 宮沢賢治『銀河鉄道の夜』

問5 次の説明に当てはまる言葉として最も適当なものを次の中から一つ選び、マークしなさい。

一時しのぎのために急いで覚えた知識

- ア 奥義 イ 下克上 ウ 付け焼き刃 エ 虎の巻

【2】 傍線部を漢字に直したとき、最も適当なものを次の中から一つ選び、マークしなさい。

問6 イ人の伝記を読む。

ア 遺

イ 偉

ウ 違

エ 位

問7 惑星タン査機の打ち上げに成功する。

ア 単

イ 担

ウ 短

エ 探

問8 目的を徹テイさせる。

ア 定

イ 底

ウ 帝

エ 程

問9 優ジユウ不断な性格。

ア 従

イ 洪

ウ 柔

エ 重

問10 千葉市は政レイ指定都市だ。

ア 令

イ 励

ウ 礼

エ 例

【3】 次の文を読んで、後の問いに答えなさい。

誰でも病気になるのは嫌なもの、いつでも健康でありたいと思います。そして、人類の歴史は、病を背負い、病と戦ってきた歴史でもありました。同時に私たちは、病をもたらすウイルスと共存すること①で進化を遂げてきた存在でもありません。

なぜそう言えるのか。私たちの体内のさまざまな遺伝子には、ウイルス由来のものが含まれているからです。②、過去にさまざまな形でウイルスに感染し、そのために命を落とした先祖が大勢いる一方で、そのウイルスを取り込むことによって、生き延びることができた人たちもいた。その末裔が私たちだということです。

では、そもそもウイルスとは何でしょうか。ウイルスは細菌とは違います。私たちは日常的に「ばい菌が入った」という言い方をしますが、ばい菌というのは細菌のことです。

細菌は細胞膜を持っています。細胞膜の中に核があって、そこに遺伝子が入っています。これに対して、ウイルスには細胞膜はありません。遺伝子がタンパク質で包まれているだけなのです。

一般に生き物とは、細胞を持っているもの、そして分裂して増えていくものと定義されます。細菌は細胞膜を持っているし、栄養を取り込んで次々に分裂をしていく。生き物ということになりますね。それに対して、ウイルスは遺伝子がタンパク質によって包まれているだけで、自分で分裂することはできません。ウイルスは他の生き物の細胞に取りついて、その栄養を取って初めて自分の分身を増やすことができる。自分の分身をコピーする力はあっても、細胞膜を持っていないため、生き物とは定義できません。

「ウイルスを殺す」というふうには、ウイルスが生き物であるかのような表現をしますが、厳密に言うと、ウイルスは生き物と物質の間にある不思議な存在なのです。ですから、「ウイルスを殺す」というのは、④「ウイルスを不活性化する」というのが正しい表現です。

ウイルスは生き物の中に入って初めて自らを増やすことができるので、必ず生き物の中にいる。こうして進化の過程で、ウイルスの遺伝子が生き物の遺伝子と混じり合ってきたわけです。

細菌とウイルスの違いを理解することは、病気を治療する上でも大変重要です。

〔ア〕

たとえば風邪をひいて病院に行くと、抗生物質を投与されますね。抗生物質の働きは、体の中で悪さをしている細菌の細胞壁（細胞膜のさらに外側を包んでいる膜）を壊すこと。細胞壁が壊れると細菌は死んでしまいます。このように説明すると、「抗生物質で、人間の他の細胞まで壊されてしまうんじゃないか」と不安に思う人もいます。でも人間の細胞は壊されません。なぜかというところ、人間も含めた動物の細胞には細胞壁がないからです。抗生物質は細胞壁を壊す働きをするものですから、人間の細胞は破壊されないわけです。

〔イ〕

たとえばインフルエンザにかかって病院に行くと、抗生物質を出される場合があります^⑤。そのため抗生物質はインフルエンザに効くと勘違いをしている人がいますが、そうではありません。

〔ウ〕

インフルエンザで高熱が続くと、体が弱ってしまい、他の細菌に感染してしまうかもしれないから抗生物質を出すのです。抗生物質の服用は、あくまで細菌の感染から身を守るためであって、インフルエンザウイルスそのものに対して効果はないのです。

〔エ〕

細菌と比べてウイルスの構造はあまり特徴がありません。しかもウイルスは細胞の中に入ってしまふ。こうした理由からウイルスだけを標的にした抗ウイルス薬の開発は非常に難しいと言われてきました。

今はインフルエンザの治療に効くというオセルタミビル^⑥（商品名タミフル）が登場しましたが、そういう抗ウイルス剤がなかった時代、一番の医者への対応は「栄養を摂って寝ていなさい。寝ていれば治ります」ということでした。でもまあ、お医者さんからしてみれば、そうも言っているられないわけで、⑦と抗生物質を処方したわけですね。結局、日本人は抗生物質をたくさん使うようになったということです。

※1 末裔 … 子孫

池上彰『おとなの教養』より

問11 傍線部①「ウイルスと共存することで進化を遂げてきた存在」とはどういうことか。最も適当なものを次の中から一つ選び、マークしなさい。

- ア 健康でありたいと願う人類の歴史は、病を背負い病と戦ってきた歴史であるということ
- イ 私たちの体内のさまざまな遺伝子には、ウイルス由来のものが含まれているということ
- ウ さまざまな形でウイルスに感染し、そのために命を落とした先祖が大勢いるということ
- エ そもそもウイルスは細菌とは違い、ばい菌というものは日常的に体に入るとのこと

問12 ②に入る語句として最も適当なものを次の中から一つ選び、マークしなさい。

- ア しかも
- イ そのため
- ウ つまり
- エ また

問13 傍線部③「自分で分裂することはできません」はいくつの文節に分かれるか。最も適当なものを次の中から一つ選び、マークしなさい。

- ア 一つ
- イ 二つ
- ウ 三つ
- エ 四つ

問14 傍線部④『ウイルスを不活性化する』というのが正しい表現です」と言う理由として最も適当なものを次の中から一つ選び、マークしなさい。

- ア 細胞膜を持ち分裂して増えていく生き物と異なり、生き物と物質の中間にあるウイルスに「殺す」という言い方はふさわしくないから
- イ 細胞壁を持ち次々に分裂していくウイルスは、他の生き物の遺伝子と混じり合っているので「不活性化」という表現が適当だから
- ウ 細胞膜を持ち分裂して増えていく生き物と異なり、ウイルスは生き物に入ってから初めて自分の分身を増やせるため「殺す」までもないから
- エ 細胞壁を持ち次々に分裂しながら他の生き物の遺伝子と混じり合うウイルスは、進化の過程で「不活性化」するしか方法がないから

問15 傍線部⑤「出される」の「れる」の文法上の意味として最も適当なものを次の中から一つ選び、マークしなさい。

- ア 受身
- イ 可能
- ウ 自発
- エ 尊敬

問16 傍線部⑥「栄養を摂って寝ていなさい。寝ていれば治ります」と医者と言う理由として最も適当なものを次の中から一つ選び、マークしなさい。

- ア 医学的知識のない人に説明するのは難しいから
- イ 時間が過ぎれば医学は進歩するものだから
- ウ 経験的に寝てさえいれば大抵の病気は治るから
- エ 当時は有効な治療の方法がなかったから

問17 ⑦に入るものとして最も適当なものを次の中から一つ選び、マークしなさい。

- ア 他の細菌に感染しないように
- イ 細菌とウイルスの違いが明らかになるように
- ウ ウイルスが少しでも減るように
- エ 今の抗生物質なら効果があると分かるように

問18 次の一文を入れる箇所として、最も適当なところを本文中の「ア」～「エ」の中から一つ選び、マークしなさい。

では、抗生物質はウイルスには効くでしょうか。

【4】 次の文を読んで、後の問いに答えなさい。

拓朗は母が亡くなった後、飲食店を始めたが経営はうまくいかず、母が元気だったころの「おふくろの味」を求めていた。ある日、娘の真琴がつくってくれた親子丼を食べた。拓朗はその味が「おふくろの味」であることに驚き、真琴から偶然見つけた母のレシピノートがあることを知らされる。

丁寧に綴られたレシピが拓朗には意外だった。母はもっとおおらかでおおざっぱな女性だと思っていた。くよくよしなさんな、おなががいっぱいになれば人間大抵のことはどうでもよくなる、それが口癖だった。くる客にも同じようなことを云っていたのを聞いた覚えがある。小さな身体

ながら、そういうどんと構えたところが常連客たちに人気があった。だからてっきりおふくろの味も母の長年の勘だよりのものだと思いきんでいたのだ。

ノートにはレシピだけではなく、客の好みや健康面、ちょっとした会話から得られたようななさやかな情報がメモされていた。②、誰々さんは高血圧だから塩分は少なめに、とか、誰々さんはこの間入れ歯にしたばかりだからやわらかめのおかずを、とか、誰々さんはニンジン嫌いだから抜いてあげてごはんは大盛、とか、その程度のメモだ。時には食堂でふるまう料理のことだけではなく、客の娘の誕生日を覚え書きしておいて、その横に「ちらし寿司を渡すのを忘れない！」と記されていたりもした。

そういえば、おれの誕生日の時も必ずちらし寿司だったよな。

拓朗は甘い桜でんぶの味を唐突に思いだし、ほほえんだ。あれは自分だけの特別な味かと思っていたけれど、見たこともない客の娘が誕生日に家で同じものを食べていたのかと想像すると、何だかおかしかった。

「何、お父さん。にやにやして、気持ち悪い」

てっきりテレビを見ているのかと思ったら、真琴がソファの背越しに拓朗を観察していた。

「笑ってないさ」

「そお？」

見られていたのが恥ずかしくて口もとをひきしめると、真琴は疑わしそうに云いながらまたテレビのほうに顔を向けた。

気をとり直して再びページをめくり、数ページいったところで今度こそ拓朗は大きく吹きだした。

「ちょっと、どうしたの？」

突然げらげらと笑いだした父親に驚いて、真琴がすごいはやさでふり返ると鋭く云った。

「やっぱり笑ってるじゃん」

「いや、悪い、悪い……」

そう云って笑いを抑えようとしてもしばらくは無理そうだった。③拓朗は突然気づいてしまったのだ、自分の大きな勘違いに。

自分だけが特別だと感じていたちらし寿司を誰か他の子も食べていた、それだけじゃない。母がいつも食堂で拓朗にだけこっそりおまけをつけてくれたのは自分の息子だからという理由ではなかったのだ。それはあの頃の拓朗が食べ盛りで成長期の子どもだったからだ。もしあの食堂に自分と同じ年くらいの子どもが食べにきていたら、母は同じようにおまけしてあげただろう。

④それを息子の特権だと他の客に対して優越感を抱いていたあの頃の自分に教えてやりたい。

莫迦^{ぼか}だなあ、拓朗。お前のおふくろはそんな器^⑤の小さい人じゃなかったんだよ。

母が守り続けたあの食堂にいる人たちはみんな平等だった。客でも息子でも関係なく、心を配り、その人に見あったものを提供しようと母は努力した。努力……、いや、愛情といったほうがいいかもしれない。息子の拓朗がないがしろにされた訳ではなく、それこそ家族のような愛情であの食堂を訪れた人々に接していたのだ。

⑥ おふくろの味はみんなのものだった。

その事実^⑦に気づいた今、拓朗は一抹^{いちまつ}のさびしさを覚えた。けれどもそれ以上に母を誰かに自慢してまわりたいくらい誇りに思った。自分が足りなかったか、拓朗には判った気がした。

おれは客を見ていなかった。見ていたのは伝票と、客が落としていった金ばかりだった。

常連のようにきてくれていた客も、あの客は家族連れだからあんまりアルコールの数が出ない、とか、サラリーマンのひとり客^{ほんしやく}を晩酌^{ばんしゃく}程度の注文で長居して、とか、覚えたのは注文の数や滞在時間に対する不満のようなことばかりで、せっかく足を運んでくれた客に自分が何を返せるか考えたこともなかった。そんな店長がやっている店から次第に足が遠のいてしまうのはあたり前じゃないか。拓朗はその客たちの顔をすっかり忘れてしまっている自分に愕然^{がくぜん}とした。

※1 レシピ …… 料理の作り方。また、それを書き記した文書。

片島麦子『想いであずかり処 にじや質店』より

問19 傍線部①「おふくろの味も母の長年の勘^{かん}だよりのものだと思^{おも}いこんでいた」のはなぜか。最も適当なものを次の中から一つ選び、マークしなさい。

- ア 母の作る料理は日々研究を重ねて完成したおふくろの味であるが、そのレシピは残っていないと拓朗は思っていたから
- イ 食堂を切り盛りしていた母はいつも楽しそうに店を駆けまわっていたが、拓朗には母が疲れているように思えたから
- ウ 母が作る料理は常連客たちの好みに合わせて違っていたので、客はいつも同じものを注文していたと思っていたから
- エ 母はおおらかでおおざっぱな人だったので、料理の味付けも細かいところまで気にせず^②に作っていたと思っていたから

問20 ②に入る語句として最も適当なものを次の中から一つ選び、マークしなさい。

- ア あるいは
- イ しかし
- ウ だから
- エ たとえば

問21 傍線部③「拓朗は突然気づいてしまったのだ、自分の大きな勘違^{かんちがひ}いに。」で使われている表現技法として最も適当なものを次の中から一つ選び、マークしなさい。

- ア 直喩^{ちゆ}
- イ 対句
- ウ 倒置法
- エ 体言止め

問22 傍線部④「それ」の指示内容として最も適当なものを次の中から一つ選び、マークしなさい。

- ア 食べ物の好みや健康面などについて、常連客の情報がメモされたノートを作ってくれたこと
- イ 拓朗にもおふくろの味が作れるように、丁寧に綴られたレシピノートを残してくれたこと
- ウ 誕生日にちらし寿司を作ってくれたり、食堂でこっそりおまけをつけてくれたりしたこと
- エ 拓朗の誕生日のちらし寿司だけは他のちらし寿司とは違って特別な味付けになっていたこと

問23 傍線部⑤「器」の意味として最も適当なものを次の中から一つ選び、マークしなさい。

- ア 器具
- イ 容器
- ウ 器量
- エ 武器

問24 傍線部⑥「おふくろの味はみんなのものだった」とはどういうことか。最も適当なものを次の中から一つ選び、マークしなさい。

- ア 母が作った料理と同じ味を誰でも出せるように、レシピノートを残していたということ
- イ 母が食べ盛りの子どもの他のお客にわからないようにおまけしてくれたということ
- ウ 母が常連客の要望に合わせて、ひとりひとりに特別な料理を用意していたということ
- エ 母が食堂を訪れる人たちに愛情を持って接し、心を込めて料理を作っていたということ

問25 傍線部⑦について、拓朗は「何が足りなかった」と理解したのか。最も適当なものを次の中から一つ選び、マークしなさい。

- ア 店に来てくれたお客を大切にすること
- イ 常連客たちの顔を覚える記憶力
- ウ 店を繁盛させるための経営能力
- エ 娘の真琴に対する思いやり

問26 本文の内容と合うものを次の中から一つ選び、マークしなさい。

- ア 父の店の経営を心配した真琴は、祖母のレシピノートで父の料理が上達することを願っている。
- イ 拓朗の店では、心を配り、お客に見あったものを提供しようとしなかったため客足が遠のいていた。
- ウ 拓朗は母が残したレシピノートを見て、懐かしさと同時におふくろの味に勝つ方法を思いついた。
- エ 父に反発している真琴は、祖母のレシピノートを見つけても父の拓朗には見せずに隠し持っていた。

【5】 次の文を読んで、後の問いに答えなさい。

野は菊、萩咲きて、秋のけしき程しめやかにおもしろき事はなし。心ある人は歌こそ和国の風俗なれ。何によらず花車※1の道こそ一興なれ。奈良の都のひがし町に、しをらしく住みなして、明け暮れ茶の湯に身をなし、興福寺の花の水をくませ、かくれもなき楽助※4なり。ある時この里のこざかしき者ども、朝顔の茶の湯をのぞみしに、かねがね日を約束してよろづに心を付けて、その朝七つよりこしらへ、この客を待つエに、大かた時分こそ②、昼前に来て案内をいふ。亭主腹立して客を露地※6に入れてから、提灯をともしてむかひに出るに、客はまだ合点ゆかず、夜の足元※8をかしけれ。あるじおもしろからねば、花入れに土つきたる芋の葉を生けて見すれども、その通りなり④。とかく心得ぬ人には心得あるべし。亭主も客も、心ひとつの数寄人※9にあらずしては、たのしみもかくるなり。

井原西鶴『西鶴諸国ばなし』より

- ※1 花車：芸術
- ※2 しをらしく：上品に
- ※3 興福寺の花の水：興福寺にある井戸の水
- ※4 楽助：安楽に生活する人
- ※5 七つ：午前四時ごろ
- ※6 露地：茶室の前庭
- ※7 提灯をともして：早朝の茶の湯では茶室までの道のりがまだ暗いので、亭主が提灯をともして客を迎える。
- ※8 夜の足元：夜道を行く歩き方
- ※9 数寄人：茶人

問27 傍線部①「こざかしき者」を言い換えた言葉として最も適当なものを次の中から一つ選び、マークしなさい。

- ア 心ある人
- イ 楽助
- ウ 客
- エ 数奇人

問28 傍線部ア～エの中から、主語が異なるものを一つ選び、マークしなさい。

- ア のぞみし
- イ 付けて
- ウ こしらへ
- エ 待つ

問29 ②に入れるのに最も適当なものを次の中から一つ選び、マークしなさい。

- ア あら
- イ あり
- ウ ある
- エ あれ

問30 傍線部③「おもしろからねば」の理由として最も適当なものを次の中から一つ選び、マークしなさい。

- ア 朝顔の茶の湯は朝顔が咲く早朝に行うものなのに、夜になってやって来たから
- イ 朝顔の茶の湯のために早朝から準備をしているのに、誰一人手伝いに来ないから
- ウ あらかじめ約束した時間に遅れてきたばかりか、亭主に対して一言の謝罪もないから
- エ 無作法な客にいやみのつもりで提灯をともして出迎えたが、誰一人気づかないから

問31 傍線部④「その通りなり」を言い換えた言葉として最も適当なものを次の中から一つ選び、マークしなさい。

- ア 一興なれ
- イ 合点ゆかず
- ウ をかしけれ
- エ 心得あるべし

問32 本文の内容と合うものを次の中から一つ選び、マークしなさい。

- ア 茶の湯や音楽など数多くある芸術の中で、和歌こそが日本では最上とされる。
- イ 昼でも提灯をともし、花入れに土のついた芋の葉を生けることが風流である。
- ウ 亭主も客もどちらも同じ風流を理解していることが茶の湯の楽しみである。
- エ 風流を理解している人であれば、亭主も客も日時など約束する必要はない。

問33 この作品の成立年代として最も適当なものを次の中から一つ選び、マークしなさい。

- ア 奈良時代
- イ 平安時代
- ウ 鎌倉時代
- エ 江戸時代

※ 問題はこれで終わりです。